



保健目標

目を大切にしましょう



めのおはなし



10月10日の「目の愛護デー」に向けて、幼児組を対象に目にまつわるお話をしました。目の役割として、まつ毛の働きや白目（結膜）、黒目（角膜）、瞳（瞳孔）の説明をすると、子ども達は真剣に聞いていました。視る力は視力といって、視力が悪くなると、お友だちの顔が見えにくくなったり、字が読みづらくなったりします。それを防ぐ為に、暗い所で本を読まない、スマートフォンを長く見ない、痒い時などに目を強くこすらない等、子ども達に目を大切にする方法を伝えました。子ども自身が自分の体のことを知って、大切にしたい気持ちを持ってもらうことを目的にお話をしています。



ほけんだより

第428号 令和5年10月1日 光明第三こども園

「10」を横にすると、まゆと目に見えるので10月10日は「目の愛護デー」子どもの目を守るためには、感染症やケガだけでなく、「見え方の異常」にも注意が必要です。この機会に異常のサインを知りましょう。

小さな子どもは「見る力」も育ち盛り

赤ちゃんの目は生後すぐはぼんやりとしか見えていませんが、その後、1歳までの時期は急速に「見る力」が発達します。3歳までには多くの子どもが大人と同じ程度（視力1.0）まで見えるようになります。見る力（視覚）はゆるやかに発達し、6歳ごろには大人と同じ程度になります。

生まれてすぐ
視力 0.01



明るい、暗い程度しか認識できません。

1歳
視力 0.2



立体的に見る力、動くものを見る力など、視覚が急速に発達します。

3歳
視力 0.8~1.0



大人とほぼ同じくらいまで視覚が育ってきます。

5歳
視力 1.0



ほとんどの子どもが、大人と同じ視覚を身につけます。

早く治療するほど回復しやすい！

こんなサインに注意



頭を傾げる



目を細める



横目で見ると



片目をつぶって見る



片方の目の焦点が合わない

見る力は、目から情報を取り入れ、脳で処理することを、毎日繰り返して育ちます。ところが、目に異常があると脳に情報が届かず、見る力が育ちません。早く治療を始めるほど回復しやすいため、見え方の異常に気づいたら、早めに眼科で相談しましょう。

正面から「見る様子」をチェックして

見え方のチェックにおすすめなのが、紙しばい。左右の目の焦点、ものを見る様子が詳しくわかります。



知っておきたい目のトラブル

目はとてもデリケート。何気なく触っただけでも、細菌やウイルスが侵入するおそれがあります。目の異常に気づいたら早めに病院に受診しましょう。

～こんなときは要注意！～

流行性角結膜炎（はやり目）

ウイルスが結膜に感染し、炎症を起こします。目やにが増えたり、白目が充血したりするほか、黒目に白い膜ができることがあります。感染力が強く、うつりやすいため、「はやり目」とも呼ばれます。タオルや寝具を介してうつることがあるので共有は避け、枕カバーやシーツをこまめに交換しましょう。ウイルスのついた手で目を触ると感染するので、手を洗うことも大切です。診断された場合は出席停止となります。登園の際は医師記入の書類が必要となります。

麦粒腫（ものもらい）

まぶたに細菌が感染して、目の縁やまぶたが赤く腫れます。目がゴロゴロしたり痛みが出たりしますが、子どもはうまく言えません。まぶたが腫れている時や目をしきりに触るときは受診をしましょう。他の人にうつることはなく、薬を正しく使えば治ります。

